

離婚意識にみる

男の不安・女の不満

●男女における「大きな」違い

「離婚を考えたことは全くない」男性は、4人に3人。

「離婚を考えたことがある」女性は、2人に1人。

●男女における「微妙な」違い

「自分の配偶者は離婚を考えているのではないか」と考えている男性は2人に1人、これは「離婚を考えたことのある」女性が2人に1人であることと一致している。

「誰が離婚の原因か」を女性に聞くと、4人に3人が「夫」と答えており、このあたりの夫と妻のギャップが離婚を考える上でのポイントとなりそうだ。

1993.3/31

ポーラ文化研究所

担当：渡辺、岡林

## 〔はじめに〕

離婚が珍しくない世の中になった。新婚旅行の直後に離婚する「成田離婚」、夫が定年を迎えるまで待っての「定年離婚」など、新しい離婚の形態も増えている。この現象を夫はどう考え、また妻はどう考えているのだろうか。『年齢別に見た女性の意識と行動調査' 90』『年齢別に見た男性の意識と行動調査' 92』の結果から、女性の離婚意識と男性の離婚意識とを、比較検討してみた。

このレポートでは、比較検討した結果見えてきた男女の離婚意識の違いについて、まとめたものである。

### ★調査概要

#### ●「年齢別に見た女性の意識と行動調査' 90」

- 〈調査対象〉 東京駅30<sup>分</sup>圏内に居住する16～65歳の女性計1000人
- 〈調査対象者抽出法〉 エリアサンプリング法
- 〈調査期間〉 1990年9月
- 〈調査方法〉 個別訪問面接聴取、および一部留置法併用

#### ●「年齢別に見た男性の意識と行動調査' 92」

- 〈調査対象〉 東京駅30<sup>分</sup>圏内に居住する16～65歳の男性計1050人
- 〈調査対象者抽出法〉 エリアサンプリング法
- 〈調査期間〉 1992年7月
- 〈調査方法〉 個別訪問面接聴取、および一部留置法併用

### ☆サンプル

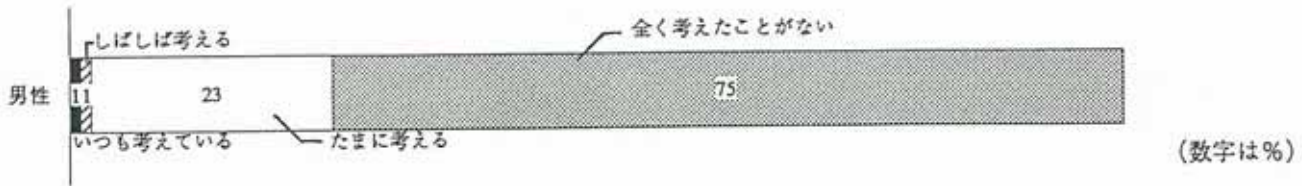
〈 女性 〉	〈 男性 〉
高校生……………75人	高校生……………75人
19～24歳（学生） ……75人	19～24歳（学生） ……75人
19～24歳（社会人） ……75人	19～24歳（社会人） ……75人
25～29歳（未婚） ……75人	25～29歳（未婚） ……75人
25～29歳（既婚） ……75人	25～29歳（既婚） ……75人
30～34歳（既婚） ……75人	30～34歳（既婚） ……75人
35～39歳（既婚） ……75人	35～39歳（既婚） ……75人
30～39歳（未婚） ……100人	30～39歳（未婚） ……150人
40～43歳……………100人	42～45歳……………100人
44～49歳……………100人	46～49歳……………100人
50～59歳……………100人	50～59歳……………100人
60～65歳……………75人	60～65歳……………75人



## 1. 『年齢別にみた男性の意識と行動調査' 92』より、男性の離婚意識について

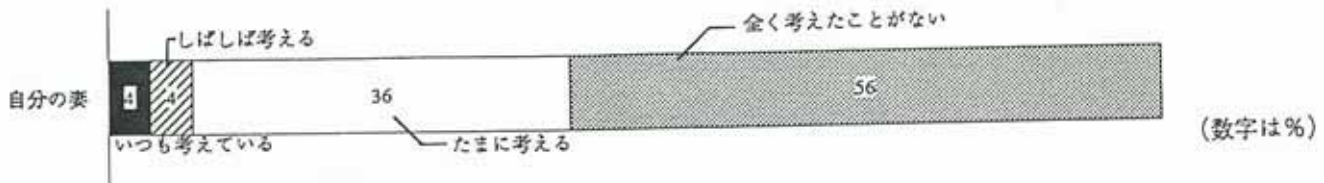
————— 男の不安 —————

◇「離婚を考えたことがあるか」という質問に対して、「考えたことがある」と答えた男性は、25%と4人に1人。残り75%は「離婚を考えたことは全くない」と回答。



しかし、それが自分の配偶者となると、様子が違ってくる。

◇「あなたの配偶者は、離婚を考えたことがあると思うか」では、考えていると思う男性は44%と、およそ半数に近い。



それでは、この数字は妻たちの実態をどのくらい反映しているのだろうか。

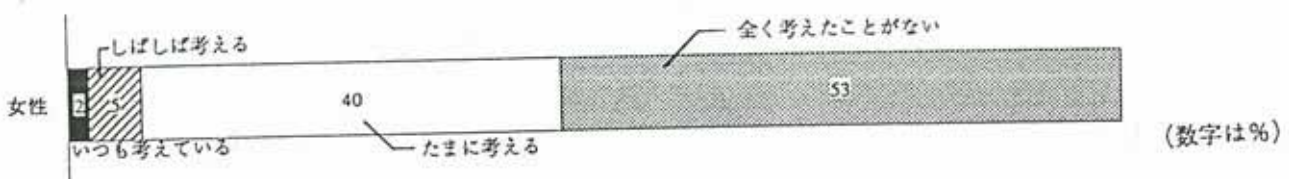
## 2. 『年齢別にみた女性の意識と行動調査' 90』より、女性の離婚意識について

————— 男の不安が的中?! —————

◇このような男性の答えに対して、離婚を考えたことのある女性は47%と約2人に1人。その内訳は、以下の通りである。

- “いつも考えている” …… 2%
- “しばしば考えている” …… 5%
- “たまに考えている” …… 40%

およそ半数の夫たちが危惧している妻への不安が、的中していると言えよう。



次に、この妻たちが離婚の原因をどのように考えているのか見てみる。

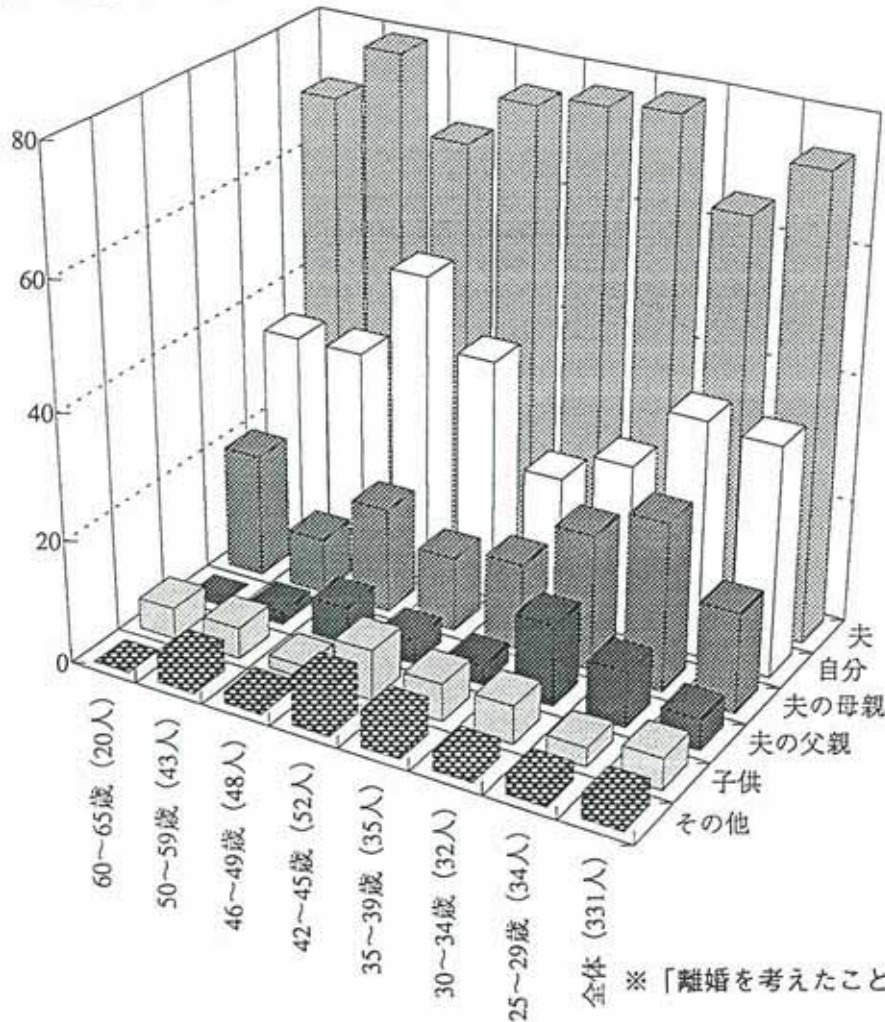
### 3. 離婚の原因のトップは「夫」「性格不一致」

——— 女の不満と男の心当たり ———

◇「離婚を考えた原因はだれにあるか」（複数解答可）に対して女性の答えは、

- “夫” ……74%
- “自分” ……37%
- “夫の母親” ……16%

と、“夫”が断突トップ。年齢別に見ると、30代では“夫”が多く、40代では“夫”が優勢ながら“自分”も半数を占める。



◇「どんなことが原因で離婚が起きると思うか」を女性に尋ねると、次のようになった。

原因	%
性格不一致	78
家庭無視	44
暴力	41
異性関係	38
精神的虐待	35
異常性格	34
親族との折り合い	31

このデータを見ると、女の不満が男に向けられているが、その原因をかなり冷静な視点で見ていることがわかる。次に、さらに掘り下げて、年齢別に離婚意識を探ってみる。



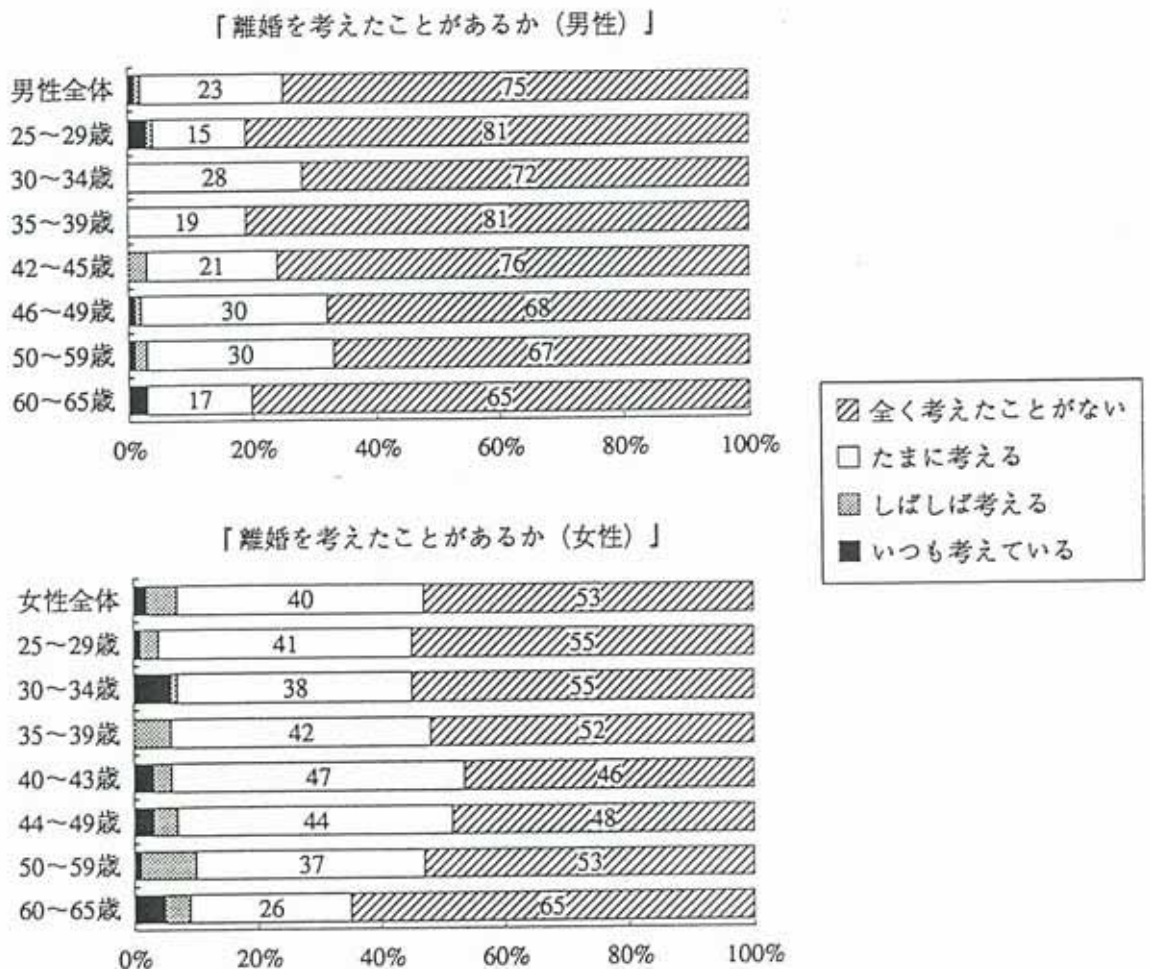
#### 4. 年齢別に見た比較

40代～50代は離婚意識が高い?!

◇男性の場合「離婚を考えたことがある」割合は、20代後半は19%と低いが、年齢が上がるにつれてその割合も増加傾向にあり、40代後半～50代では30%強と1.5倍に増える。さらにこの年代は自分の配偶者が離婚を考えていると思う人が5割と、全年代の中で一番高い。60代前半になると「離婚を考えたことがある」割合も、「自分の配偶者は離婚を考えたことがあると思う」割合も大きく減少する。

一方女性は全年代であまり変化はないが、「離婚を考えたことがある」割合は30代後半から少し増えはじめ、男性のピークとは若干のズレがあるが、40代で最も高くなっている。

したがって男女とも「離婚を考えたことがある」割合が最も高くなるのは、40代後半～50代。40代～50代は“離婚意識が高まる時期”ともいえそうだ。



## 〔考察〕

冒頭で新しい離婚形態として「成田離婚」「定年離婚」に触れた。「成田離婚」は、お互いの欠点が目について新婚旅行直後に離婚に至るというものだが、「お互いに」というよりも「女が男にアイツを尽かした」というニュアンスを含んで使われることが多いように思われる。これに対し「定年離婚」の場合は、長年家庭を顧みず、仕事にしか目を向けてこなかった夫に妻がアイツを尽かし、夫が定年を迎えるにあたって自分も「妻の定年を迎えたい」と離婚するというものである。これも「女が男にアイツを尽かした」というケースがほとんどである。

調査結果からは、半数の男性が「妻に離婚意識があるのでは」という不安を持ち、またそれに同等する半数の女性が「離婚を考えたことがある」ということがわかった。まさに、男性の危機意識が夢ではないという、女性の裏付けがとれたといえよう。

とくに離婚を意識する割合が高いのは、40代～50代。「定年離婚」の可能性は半数の夫婦にあるといえるが、その芽は子育てや仕事で最も忙しい30代に生まれたものなのかもしれない。調査結果から、離婚意識の割合が急激に増加する40代の直前あたりに、離婚の危機を回避できるポイントがあるのではないかと思われる。